

ベルマーク新聞 10月号

発行 公益財団法人ベルマーク教育助成財団 東京都中央区築地5-4-18 汐留イーストサイドビル7階 〒104-0045 電話 03-5148-7255(代表)
郵便振替口座 00100-7-56035 ホームページ <http://www.bellmark.or.jp/>

93万点を1年で集めた秘密は…

 2018年度全国1位、横浜市立駒岡小が累計400万点



みんなで「1」のポーズ。前列右から3番目が宇田委員長、後列右から5番目が今久保副委員長

横浜市鶴見区の市立駒岡小学校(中山正之校長、児童数751人)は昨年度93万4543点のベルマークを集め、全国1位の集票成績に輝きました。前年の31万点余から3倍もの集票アップ。3月には累計400万点を達成しました。その秘密はどこにあるのでしょうか?

同校はオリジナルの「ベルマークシート」を使っています。横1列にマークを5枚貼り、企業番号と点数を書き込むシートが、1枚の紙に6~7列印刷され、短冊のように切り取って使います。

作業を担うPTA学年委員会が年9回発行する「ベルだより」にも印刷されています。「この方式は集計が楽。お子さんが台紙にマークを貼り、親子で楽しんでいるという声も聞きます」と委員長の宇田由美子さん。忙しい人はマークを貼らず

に封筒に入れてもいいと伝えているそうです。

また、駒岡小のある地域は近年、学区内に大型マンションや住宅ができたそうで、宇田さんは点数増加の理由に「児童数の増加」もあげました。さらに続けて「『この方』の存在が……」と、そばにあったトートバックに触れました。

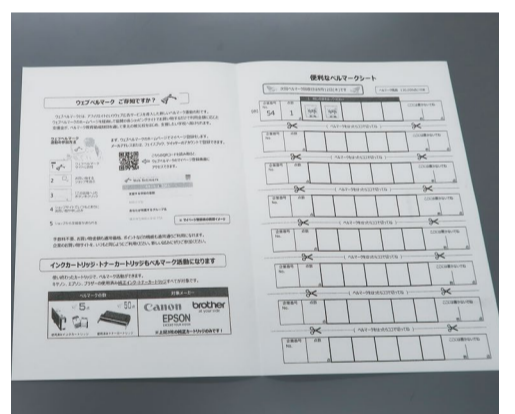
バックの持ち主は、お子さんが駒岡小の卒業生だというお母さん。今は地域の一人として、たくさんのマークを寄せてくれています。「子どもが学校に通うようになったら回収があるかも」と思ってマークを貯めてきたそうで、お子さんの入学後は少しずつマークを出していました。お子さんの進学先の中学がベルマークを集めていないとわかって昨年度は一挙にマークを出し、まだ残っている分を

今年度も出し続けてくれています。

ほかに、地域の4自治会に回覧で回収を呼びかけ、信用金庫や郵便局、地区センターなどにも回収箱を置いています。学年委員会は美化活動も担っていますが、教室用の鉢植えを仕入れる園芸店からは使用済みのインクカートリッジが届きます。学校の協力を得て昨年度からは給食の牛乳のテトラパック回収も始めました。

こうした、多くのお母さんの協力による結果が、全国1位として結実した、というわけです。

宇田さんは「もう一度、1位が取りたいです。ベルだよりでもどんどん告知をして、楽しく読んでもらえるようにしたい」と意欲を話してくれました。



④トートバックから預けられたマークを取り出す
⑤テトラパックの作業中
⑥ベルだより掲載の「便利なベルマークシート」

駒岡小のみなさん、
ありがとうございます!!



東北3県の139校に総額1200万円

 東日本大震災被災校支援

東日本大震災から9年目を迎えた今年度、ベルマーク教育助成財団は岩手・宮城・福島3県の小中学校139校に対し、総額1200万円相当の支援を実施します。

支援先の内訳は以下の通りです。

岩手 小学校33校、中学校24校/宮城 小学校15校、中学校31校/福島 小学校26校、中学校10校

支援先の学校名は5ページに掲載しています。

各県の小中学校長から支援先の推薦をいただきました。福島県の小学校は複数校が一つの校舎で学んでいるケースも多く、支援単位としては17グループになりま

す。

支援内容は①ベルマークの「お買いものガイド」から必要な備品を選んで購入してもらう②児童・生徒の移動の手段としてのバス代補助、の二通りです。小学校では備品、中学校ではバス代を希望する学校が多いようです。

ベルマーク財団は2011年の震災発生直後、ノート10万冊・鉛筆10万本を被災校に贈ったのを皮切りに、東北3県の小中学校を中心に支援を続けてきました。今年度分を含め、これまでに支援した学校は1893校、支援総額は4億9000万円相当になります。

支援の原資は、ベルマーク運動参加校がお買いものをした際に生まれる、購入額の10%の援助資金と、各校から寄せられた友愛援助の現金寄付、「被災地に」として送られてくる震災寄贈マーク、そしてウェブベルマーク運動による助成金です。ベルマーク運動に携わるみなさまの思いの集積が、被災校を支えているのです。

震災から時がたち、復興事業も進んできましたが、原発事故の終息点が未だに見えないように、その傷跡は今も深く残っています。ベルマークはこれからも、被災地に寄り添って歩んでいきたいと考えています。